

## エゾシカグリーントライプについて

当法人は直接扱っておりませんが、食肉に関しては、安全性が第一で、以下美味しさ、栄養価などの機能性、価格の3要素のバランスが求められます。

一方、ドッグフードのグリーントライプは、鹿に関しては輸入品がありますが、これらは野生のものではなく、ニュージーランド産などの飼育している鹿のトライプです。

エゾシカは、過去沢山捕獲されてきましたが、トライプに用いられる第4胃は、ほぼ全量廃棄されてきました。ただし、これらを利用する場合いくつかのハードルがあります。

まず、春から秋に有害駆除を銃やくくりワナを用いて行った場合、ほとんど腐敗して使い物にならないと思われます。捕殺してから処理、保存するまでの時間は重要です。しかも決してよい香りのものではないので、捕獲従事者に敬遠されるでしょう。

また、積雪期の狩猟で捕獲したものは、気温が低いので回収し利用するチャンスは増大しますが、第4胃の内容物が、ササ、枝、樹皮、落ち葉などによって占められ、食べた植物の栄養価が低いマイナス面があります。

では、餌植物の栄養価が高く、植物の種類が多様で、エゾシカが体力を回復するために最適な植物を選択的に選んでいる時期はいつかと言えば、それは4月から6月ころになります。逆に性別、齢別、生息地域や積雪の状態にもよりますが、2月から5月ころは特に肉質が非常に悪く、食肉としてはベストな状態とは言えません。

被害防除と言う観点で見ると、4、5月は農耕地におけるエゾシカと人間の軋轢が最も高い時期に当たります。ですから、肉質が悪いから捕獲しないということにはならず、捕獲後の鹿は大半が廃棄されてきました。

しかし、ペットフード資源としてみると価値の高い資源でもあり、それらを廃棄せず利用可能なシステムを構築することが求められます。

春のトライプにも、エゾシカの生息環境により、グレードが生じると考えられます。例えば、生息環境の劣化が著しい洞爺湖中島のような場所にいるエゾシカは、通年利用価値は低く、農耕地のうち特に畑地周辺に依存している鹿も農薬摂取の可能性があります。飼育されているエゾシカは、人間の都合で与える餌を限定しておりますので、良いトライプかどうかは疑問があります。

そういう観点で見ると、牧草地（特に放牧地）と山林が入り混じったような環境、もしくはエゾシカの生息密度が低く自然度が非常に高い山林周辺で捕獲された野生個体のトライプが理想と思われます。

トライプは乳酸菌などの補給効果と、鹿が採食した高栄養価の植物の補給効果の両面がありますので、以上のような観点から、当法人は、5月前後に捕獲される十勝北部の大雪山系に生息するエゾシカのトライプをまず優先的に提供致します。